

しいのき



ネズミと大黒さま

名誉館長 三隅治雄

明けましておめでとうございます。ことし平成8年は子年に当たります。巻頭の写真はそれにちなんでのもので、当館所蔵の柴田是真（1807～91）の作品の一点、大黒天が米俵をかつぐ凶の掛け軸です。これと対の軸がもう一幅あって、そこには恵比須が鯛を馬にのせて歩く姿がえがかれていますが、大黒天の方は、右肩のところネズミがちょこんと見えるのが、おもしろい図柄です。大黒天はインドではこわい戦争の神、中国に来て食堂を守護する柔和な神となり、日本に渡っては台所の神から田の神にまで変身し、出雲神話の大国主神が習合しました。ネズミとの縁は、『古事記』に、大国主神が野火に囲まれたとき、ネズミに地下の洞穴を教わって難をのがれたとの説話に由来すると言われ、また旧暦11月を子の月と言ひ、この月の子の日に大黒天をまつる風習もありました。食物を喰ひ荒らすネズミが食物の神と仲良しとはおもしろい組み合わせですが、まめに動いて、子をたくさん生むネズミのパワーに、人は敬意を表したのでしょう。

文化財よもやま話

餅搗き唄

「ハー めでためてたの若松様よ
ハー 枝も栄えて葉も茂る…」
(上高田の餅搗き唄)

上高田では戦前頃まで餅搗きが行われていました。親戚、近隣の家々との共同作業としての餅搗きは、年の暮れの、また寒の日の、一大作業でありました。そしてこの場で餅搗き唄がうたわれる光景は、実に見慣れた、楽しいものであったのです。11月頃よりこの行事は始められ、家によっては7～8俵も搗いたといえます。餅は水につけて保存し、1年にわたっての食料として、朝食におやつにと用いられました。

餅搗きは、モチ米を蒸した後、まずそれをこねることから始まりますが、この時、ゆったりとした上記の唄がうたわれます。続いて「千本搗き」といって、数人で調子を合わせて交互に杵をつく時には、速いテンポの「数え唄」のような唄を伴奏とする所もあります。最後に、「納めの白」といった唄で、白、杵、作業に携わった人々の労をねぎらい終わりとなります。器用な人は、即興で唄をつくってしまうこともあったといえます。

人々の生活の中に、かつては常に唄がありました。仕事の席で唄をうたい、踊りをおどる生活があったのです。このような習慣の多くは失われてしまいましたが、この度、12月3日に、上高田では餅搗き行事が復活しました。かれこれ50年ぶりのことです。今後の動向に注目していきましょう。



▲上高田餅搗き風景 12月上高田氷川神社にて

大地に眠る歴史

中野区弥生町、町名由来の壺

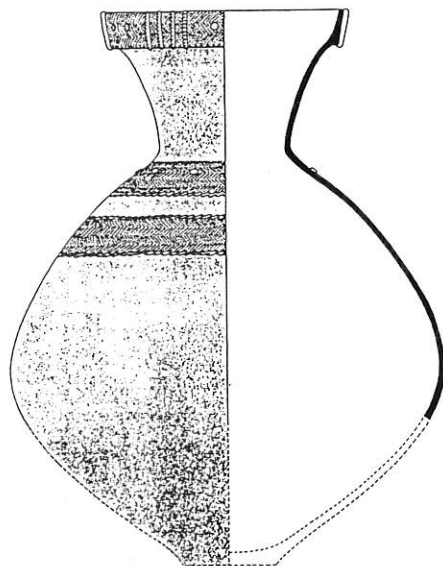
時々、聞かれることがあります。「中野区の弥生町は弥生土器の発祥の地ですか?」。正解は「ちがいます。」その弥生町は現在の文京区弥生町です。明治17年にそれまで見たこともない一つの土器が発見されました。その土器は発見された場所〔文京区本郷弥生町〕の地名をとって弥生式土器と名づけられたのです。

それでは、中野区弥生町はどうしてそう呼ばれるのでしょうか。残念ながら発祥の地とはいきませんが、文京区と同じく弥生土器にちなみます。

昭和42年の住居表示の変更の時に、昔から弥生土器が発見されていることからつけられた名称なのです。有名なのは、図に示しました、旧川島町から発見された壺です。この壺は『弥生式土器集成』という本に図が掲載され、広く学会に知られています。

胴の部分は径60センチ、口の径は30センチもある大きなもので、縄の文様が付けられ、全体に赤く彩色されていたことが知られます。

しかし、残念なことに弥生町の名の由来となったこの壺が、今どこにあるのか、その所在は不明なのです。



▲中野区川島町出土の壺
(今はどこにあるのか?)

事業報告

各種事業経過

1995年10月～12月

事業名	内 容	期 間
特別企画展	「江戸・東京百景今昔く広重「名所江戸百景」を東京に見る」	10/1～11/18
企 画 展	「お正月－はがきのたのしみ」展	12/14～1/13
ミ ニ 展	「西の市と熊手展」	11/2～30
古文書講座	「入門コース」講師大友一雄氏(国文学研究資料館国立史料館助教授) 白井哲哉氏(埼玉県立文書館学芸員) 伊藤康晴氏(横浜市歴史博物館勤務)	10/28～12/16
史跡めぐり	「上高田・寺町コース」 講師 角田茂氏(中央大学大学史編纂室)	12/2
文化財調査	鷺宮地区民俗調査	継続中
埋蔵文化財 調 査	片山遺跡 第二次発掘調査報告書 刊行	10/1
	御嶽遺跡 調査報告書刊行作業	継続中
	中野三丁目民有地試掘調査	10/20
	弥生一丁目民有地試掘調査	11/1
	御嶽遺跡 第二次発掘調査	11/24～



▲特別企画展の1コマ

▼「西の市と熊手展」の準備風景



寄贈資料一覧

1995年1月8日～4月20日
敬称略・受入順

資料名	点数	氏 名
レコード盤	多数	植田 啓介
絵はがき他	多数	須藤奈津美 福家真津里
写真	1	北浜 清子
行灯・枕	2	塙 百子
氷けずり	1	奥田 詔紀
五月人形	一式	小野 昭明
農地証券・写真	3	露無 健治
背のう・水筒他	4	大沢 敏尚
模型 他	2	池上政之助
ひな人形	一式	井上美代子
ひな人形	一式	秋元喜久恵

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

入館状況

1995年9月～11月(延72日間) (人)

一 般	社教団体	学校教育	合 計
9,096	82	763	9,941

発行年月日 1996年1月1日

編集・発行  **山崎記念
中野区立歴史民俗資料館**

〒165 東京都中野区江古田 4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 7中教社第7号)